

平成 29 年度 研究計画書

Research Plan FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア・アフリカ講座ペルシア語専攻 講師
氏名 Name	Jahedzadeh Shorblagh Behnam
専門分野 Academic Field	ペルシア語学

平成 29 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2017 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ペルシア語における移動動詞の統語的・意味的な特徴				
1)	<p>29 年度は以下の A、B と C の資料収集およびデータベースの作成を進めます。A と C は平成 26 年から、B は 27 年から着手したもので 29 年度も継続していきます。</p> <p>A) ペルシア語で気持ちを表す際のさまざまな表現の収集と整理：気持ちを表す表現は第 2 言語習得におけるもっとも重要な表現の一つです。気持ちを表すペルシア語の表現を既に 200 項目収集しています。それぞれにふさわしい例文を作っていきます。</p> <p>B) ペルシア語の文型表現の収集と整理：文法的な項目、時間的副詞など、これまでペルシア語の文に登場する 600 以上の文型表現を収集しています。それぞれにふさわしい例文を作成中です。これからはそれぞれの項目に適切な説明を加える必要があります。</p> <p>C) ペルシア語教科書作成計画 (世界の言語シリーズ)：この計画は 26 年度から始めていており、他の教員と共同で進めています。現代会では 100 ページ以上できています。</p>				
2)	<p>ペルシア語の統語的な研究：</p> <p>ペルシア語における移動動詞の統語的・意味的な特徴：ペルシア語の基本的な移動動詞の <i>raftan</i> (行く) とあ <i>madan</i> (来る) に着目し、それぞれの基本的な意味や話し手や聞き手などに用いられる際の統語的な普遍性や個別性に注目します。</p>				
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	言語学				
キーワード Keywords*2	ペルシア語	移動動詞	文型表現	統語論	意味論